



平成 21 年 11 月 9 日

卓話 『日本人はなぜ英語が下手なのか』

社団法人 日本英語交流連盟 会長

松平 恒忠 様

皆さんこんにちは。今日のお話は日本人はなぜ英語が下手なのかという題です。最近、英語を第二言語とする国が増えています。自国語の他に英語を使っているということです。ヨーロッパではオランダ、スウェーデン、ドイツなど。中南米でもアジアでもアフリカでもかなりな国で第二言語化している。国連とか E U などの国際機関でも実際に使われているのは英語。ジョークで、国連での主要言語は English でなくて Bud English だっているのがあります。いろんな国の人が使うから発音も文法も滅茶苦茶で、Bud English が共通な言葉となって国連を支配している。ということは英語が、言語が本来持っていた特性、文化とか民族とか宗教とか歴史を全部なくして一つの独立した言語になっている。これが世界中の認識になりつつあるわけですが、日本はまだ英語を外国語の一つとして認識していると私には思われてならない。

なぜ日本人は英語が下手なのか。いろんな説がありますが、私は最大の理由は今まで日本人に英語は必要なかったということに尽きると思うんです。日本は単一文化の国で、生まれてから死ぬまで一つも英語使わないでこれた。英語はごく一部の人にお任せしとけばいい。おまけに我国は非常に優れた国ですから翻訳物の出版は断トツ、情報はみんな日本語で入る。それで勉強としての英語しかやらないからいやになっちゃう。

ではどうすればいいか。日本はエネルギーも食料も、経済も学問も世界のシステムの中に入っちゃってる以上、私としては大卒の連

中には少なくとも英語でコミュニケーションできる能力を持ってもらいたい。ヨーロッパの学生はみんなそうです。そのためにどうするかというので、若い時からやれっていうのがあって、日本も小学校から始めるらしい。私は大事なことだと思います。フィンランドでは小学 1 年からスウェーデン語を教え、小学の真ん中辺から 3 番目の言葉を教えて、落ちこぼれなく皆やってる。人間は子供のころから教えれば 2 つぐらいの言葉は十分頭に入る。フィリピンだって小学校で英語やってます。ただフィンランドの場合は先生の質がとてよくて、小学校の教師はほとんどが大学院を出てる。それでカリキュラムを自分で作って自分で研究してやっている。そこで教え方が問題になるわけで、各教室でその担任の先生が英語を教えるなんていうのじゃ絶望的で、その程度なら国語をやった方がいいということになるわけです。

余談として 1 つ。日本人は英語の L と R の発音が難しいとよく言います。そこで僕が発見したのは、ローマ字のヘボンさんが我々のラリルレロに R を当てたことが大失敗だったということ。日本のラリルレロは L ですよ。日本人はそれで混乱に陥っているの、僕は文科省が思いきってローマ字のラ行を L に変えると少しは良くなるんじゃないかなと思っています。ありがとうございました。

